

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100784		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台北郷		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区は入下800番地		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572100784&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局		
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101		
訪問調査日	平成22年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間部にあり、周りの季節感あふれる風景がホームの中庭から広がっています。中庭の木々・草花を見ながら利用者と共に過ごせる空間があり、幸せがあります。ホーム内の庭の手入れ・草取りなど地区の方々がボランティアで環境整備をしてくれます。家族や近隣の方々の野菜・食べ物の差し入れや、面会時にはご家族と利用者・職員で食事する機会も持っています。また、利用者の得意な事を一緒にしたり、その人らしさを出せるようなケアに努め、その人の立場で考え、挨拶や笑顔を忘れないように取り組んでいます。お互いに支えあう関係が継続出来るように日々の生活を大切にして、職員も各研修に参加し、資格取得を目指し、ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山間部にあるホームで庭も広く職員と利用者が共に野菜をとったり、天気の良い日は庭を散歩したり等穏やかに過ごしている。また地域の方もボランティアで職員の手の届かない環境整備に訪れるなど、交流が行なわれている。職員は資格取得を目指し勉強することで、日々のケアサービス向上に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者や職員が、地域と関わっていく事業所独自の理念を作り、いつでも確認できる場所に掲げ、管理者、職員全員でその理念の下で取り組んでいる。	管理者を中心に理念の検討をしており、その人らしさを大切にとの思いを職員全員で共有している。壁に理念を掲げ確認しながら、日々実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民より自宅で採れた野菜等を頂いたり、庭の手入れにも定期的にも来て頂いている。納涼祭の参加も呼びかけ、買い物や散歩等で交流を図っている。	地域の祭りに積極的に参加し、またホームの納涼祭には地域の人々の参加を呼び掛けて交流している。庭の手入れや草刈りなどは、家族や地域の人々が自主的に、ボランティアで来てくれるなどの支援がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに研修報告や、地域の人々との交流を通して、認知症の人の理解等に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価の内容や外部評価の結果を説明し公表している。また、参加メンバーからの意見や要望等をサービス向上に活かすようにし、ケア会議で全職員に報告している。	町の担当職員、消防、民生委員、家族の参加で3か月に一度運営推進会議を行っている。その中でのアドバイス、意見を運営に活かしている。	2か月に1回、定期的な開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所の行事や取り組みについて、相談したり案内したりして協力関係を図っている。必要とあれば直接出向いていくことも多い。	管理者は、行事の時など気軽に行政に足を運びアドバイスを受ける等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を明示するとともに、代表者及び全職員間で理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は見守り重視のケアに取り組んでおり、玄関門扉の鍵は何時もかけていない。見守りには地域との交流も欠かせないと認識し、努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議にて勉強会を設け、虐待に関する意見交換を行い、虐待を見過ごさないように努め、利用者の身体や精神の状態に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議等で勉強会の機会をつくり、実際後見人制度を利用されている方もおられ、管理者及び職員と後見人との間での情報交換や相談を行い活用するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明等は入所時に行っており、変更時にもその都度説明し了解も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情・行動の変化等に注意し、本人の思いに添うように努め、運営推進会議等で認知症の方の思いを知る機会を設けている。	家族来訪時、行事のとき等話を聞いたりしている。また毎月請求書を送付する時は、利用者の様子を伝える手紙を入れる等工夫をし、意見の出しやすい雰囲気作りをしている。	運営推進会議の内容の報告についても家族に伝える工夫をしてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の利用者との関わりの中で、各職員の気付いたことやアイデアを取り入れ、日々反映させている。	毎月、ホーム全体で話し合いを行い、日々の業務での気づき、アイデアを業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の職場環境や状況に留意しながら、働きやすい環境整備に努めている。また、その都度相談も受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は必要段階に応じて計画し、それに伴う勤務体制にも配慮している。資格取得のため合同の勉強会も実施しており、研修の結果報告を毎月のケア会議で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、同業者と管理者会議を開催し、意見交換を行いサービスの向上に努め、勉強会等で職員間に共有し、他の施設の行事等の参加で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の生活状態の把握に努め、本人より不安や要望等を聞きながら、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族に当グループホームを見学して頂き、家族の意見や要望等を聞きながら、職員間でも事前に話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や、相談を重ねる中で必要なサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自然と身につけている動作(編み物、食器洗い、皮むきなど)を見習うこともあり、利用者の言葉に励まされたり、共に泣いたり笑ったりして支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の生活の出来事や気づいたことを共有し、家族の協力を得て一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで墓参りに行ったり、馴染みの人と面会し会話されたり、家族の協力を得て帰省され親戚や近隣の方と交流されたりして、関係が途切れないようにしている。	馴染みの友人、知人が気軽に訪問できるよう工夫し関係が途切れないようしている。また近くの店にも買い物に行く等交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に会話したり、ボール遊びをしたり、中庭に出て外の景色を眺めたりして利用者同士がふれあえて支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても当グループホームでの行事の参加や本人の状況を把握し、必要な情報の提供・相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の接する中で、利用者の言葉・表情・行動から真意を推し量り、それらを家族に伝え、情報を得ながら本人本位で検討している。	利用者の日々の表情や会話、行動の中から希望や意向をくみ取る努力している。さらに家族と話すことで真意を推し量るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	こちらから出向いて本人と話したり、家族の来所時に当ホームでの生活や雰囲気に関する意見を聞いたり、ケアマネからの情報を踏まえながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な一日の生活の流れはあるものの、一人ひとりの体調に配慮し、出来なくなったことよりも出来ることに着目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向も踏まえ、ケア会議等で利用者各自の問題点について解決策や意見を話し合い、計画を作成し、日々の介護に活かすように努めている。	利用者、家族の意向を聞きながら、職員で話し合い利用者本位の介護計画の見直しを定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・健康状態及び日々の暮らしの様子や言葉・エピソード等を経過記録表に記入し、全職員で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるように利用者一人ひとりに対応し、本人のニーズに出来るだけ近づけるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	連宮推進会議に地区の民生委員、消防団の方も入れ相談することもある。防災訓練時に近隣の方々への参加の呼びかけ、社協へボランティアの要請をし、窓ふきをしていただいたり、地区民の方の庭掃除は自主的に行っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人又は家族の希望するかかりつけ医となっており、体調によっては連絡を取りながら適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医へ定期的、また急な場合の受診の支援が行われている。受診について家族の協力を検討している。	家族の協力を依頼する時は、ホーム内での状態や状況についての情報提供の工夫をしてほしい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の健康管理や状態の変化に応じてその都度看護師に相談し、看護師がいない時は連絡をとって指示を仰ぎ、申し送り(記録)しながら常に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の状態を報告するとともに、面会時には病院からの情報を得て相談に努めている。退院の見通しのついた時は、話し合い退院の受け入れ体制を整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階をおって本人・家族と話し合いながら、また医療機関と相談しケアに努め、家族にも協力を得ながら取り組んでいる。	重度化や終末期に向けて、家族・職員共に話し合いを持っている。母体病院、協力医療機関との連携も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を整備し、職員は救急法の訓練などの研修等に参加し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が年2回利用者と共に役場、消防団、業者の方々の協力を得て、避難、消火、通報訓練を行っている。また、近隣の方々の協力も得て連絡網もとっている。	年2回、消防団、地域の方を含め総合訓練を行っている。その中での気づき、アドバイスを受け対策に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に してさりげないケアを心がけたり、自己決定 しやすい言葉かけをするように心がけている。 る。	利用者の人格を尊重し、本人の意思に添うよ う、細心の注意を払い対応している。職員は 穏やかな言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて言葉かけや、聞こえづら い時は筆談したり、意思表示の困難な利用 者には表情や態度で確認しながら行ってい る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人ひ とりの体調等に配慮しながら本人の希望も 踏まえて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	自分で行える利用者は本人の意向で着替え 等をされている。散髪やパーマ、髪染めは 美容室まで行かれたりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者と職員が隣同士で食事を摂ったり、 声かけにて下膳してくださったり、野菜の皮 むきを手伝っていただいたりしている。また、 食器洗いや台ふきなどもしている。	利用者と職員が同じテーブルで楽しみながら 食事している。また利用者は体調に合わせ、 できることを手伝っている。栄養面では栄養 士の協力で食品チェック表を取り入れる等工 夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事摂取状況を毎日チェックし記録してい る。嚥下状態の低下等が見られる時は、食 事形態を変更したり、トロミをつけたりして調 整している。また、水分量が少ない時は、本 人の好みの水分を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけ・準備・見 守りを行い、一人ひとりの能力に応じた口腔 ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行けない利用者でも、日中は定期的にトイレ誘導して、トイレでの排泄が行えるように支援している。	利用者の表情や間隔もみながら、トイレでの排泄を誘導し支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く食事に取り入れ、ヨーグルトやヤクルトなど水分補給をこまめにして、散歩なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	失禁等の利用者の場合は、その都度入浴していただいたり、希望があればいつでも入浴できるように心がけている。	入浴時間に余裕を持って入ってもらっており、時には利用者同士一緒に入ったり楽しんでいる。また何時でもシャワー浴はできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自力歩行できる利用者は、本人のペースで好きな時に休まれている。また、車椅子の利用者は、様子を見て休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を見て、薬が変更になったときなどは、申し送りノートに記入し職員全員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	声掛けを行い、散歩、ドライブ、買い物等にお連れしている。利用者全員で楽しめるボール遊び等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行きたい利用者がいれば、一緒に出かけている。利用者に墓参り等の希望があれば、できるだけ出かけるようにはしているが、職員の勤務体制によってはなかなか難しいので、後日になることもある。	希望があればホームの近くの店や美容院へ一緒に出かける等支援している。また春秋には墓参り、天気の良い日はドライブに出かけたり外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く時、しっかりされている利用者には財布を持って買い物をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、本人に電話番号を聞き、カルテ等にて確認のうえで、本人に受話器を持って話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や色紙で作った飾りや絵、写真等をホールや玄関等に飾り、不快や混乱を招かないよう居心地よく過ごせるように心がけている。	玄関、ホール食堂に季節の草花が飾られ、窓からは広い庭や風景を楽しむことができ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また採光、温度、換気など適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にベンチを置いたりして、利用者が気の合った同士で、または好きな場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族と相談して自宅で使い慣れた物や家具、記念の品物等を持ってきていただくようお願いしているがなかなか難しく、少ない利用者は、ホームの方で整えている。	居室には利用者の使い慣れた家具が置かれ、また家族の写真、記念の品を置くなど居心地の良い居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はあまり広くはないが、見守りはしやすく、手すりやトイレの表示、一人ひとりの能力に応じた居室の配置等を考慮し、「手は離しても、目は離すな」を心がけて、本人のペースで自由に行動できるようにしている。		